

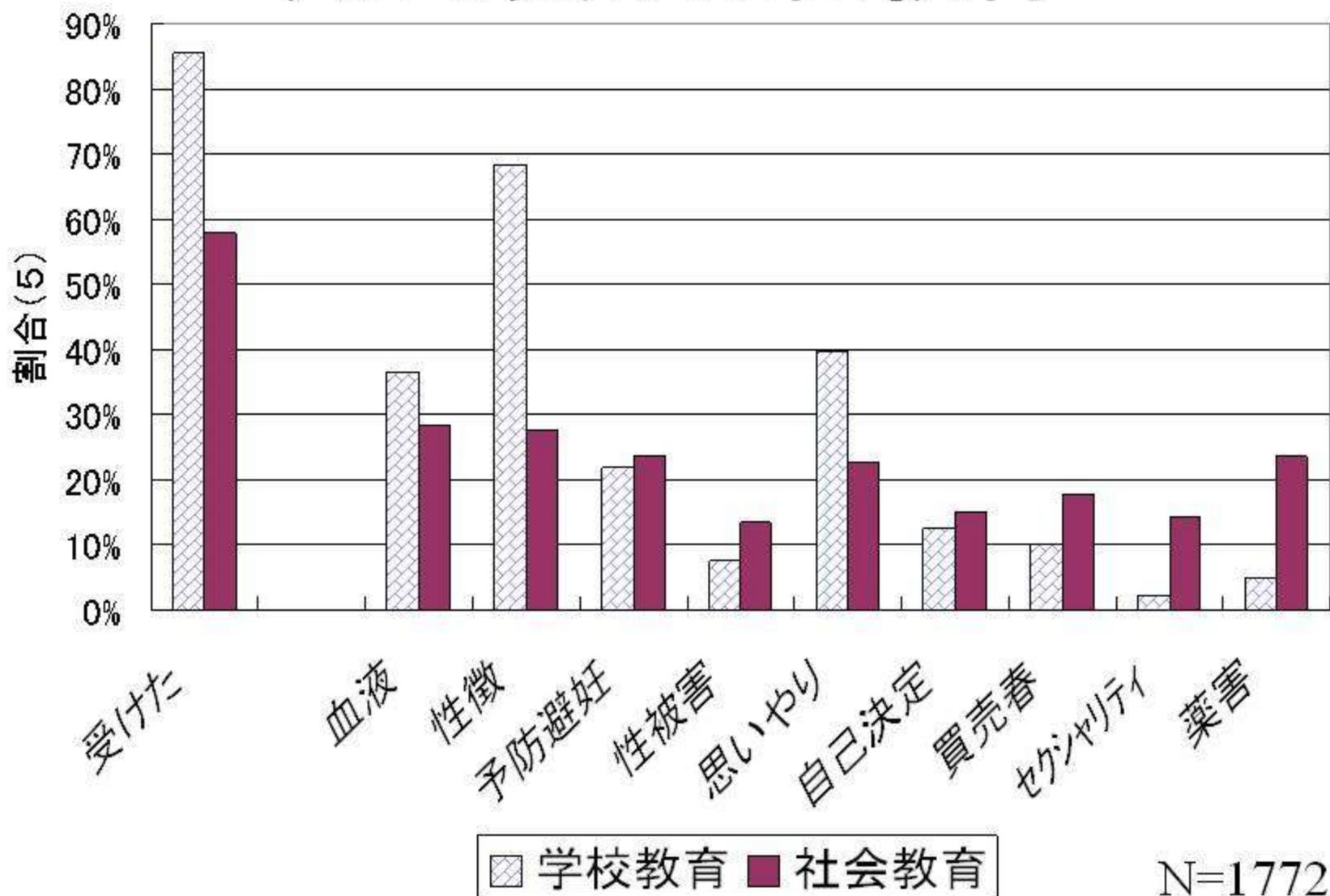
# エイズ教育に関する 意識調査

*f*AIDS

福永一郎 山口一郎 伊勢和宏  
高田 昇 白坂真男 實成文彦

- 1997年12月、商用パソコン通信ニフティサーブメインメニュー上に一般公募のアンケートシステムを構築し、エイズ教育に関するアンケートを行った。
- 今まで受けたエイズ教育、エイズ教育に関する意見について尋ね、また、若干のエイズに対する意識を聴取した。
- 回答者数は1,772人であった。

# 今まで受けた性教育



高校生までの学校教育では、第二次性徴や妊娠・出産などの知識を学んだという回答者が多く、7割近くに上った。血液の取扱いやけがの手当などの知識、命の大切さとか、相手を人間として思いやる大切さについては4割弱、性感染症予防や避妊の具体的な知識については22%と低かった。自分の性行動は他人任せではなく自分で決定することの大切さに至っては10%程度と少なかった。いずれも受けたことがないとの回答も15%あった。

学校教育以外（社会教育）では、受けたことがないが42%と多く、受けたとする人も各項目、2割前後になっていた。こちらは、能動的に知識を求めていった人が大部分と考えられるが、学校ではあまりみられない性被害の対処法、商品としての性の問題、薬害エイズ、がある程度見られた。

性交と妊娠・出産に関する知識について，学校および家庭で教えることについて

		必要	前向き	慎重に	不必要
中学生 段階	不特定	58.6%	29.0%	10.8%	1.0%
	愛があっても	68.1%	25.3%	6.3%	0.3%
高校生 段階	不特定	88.9%	8.9%	1.6%	0.7%
	愛があっても	92.6%	5.8%	1.3%	0.3%

不特定n=575 愛があってもn=1197 U-test  $p < 0.005$

## 避妊や性感染の予防知識について学校および家庭で教えることについて

		必要	前向き	慎重に	不必要
中学生 段階	不特定	51.1%	31.7%	15.8%	1.4%
	愛があっても	61.2%	29.2%	9.4%	0.2%
高校生 段階	不特定	84.7%	11.1%	3.1%	1.0%
	愛があっても	90.4%	7.5%	1.9%	0.2%

不特定n=575 愛があってもn=1197 U-test  $p < 0.005$

避妊や性感染予防の具体的な予防技術について学校および家庭で教えることについて

		必要	前向き	慎重に	不必要
中学生 段階	不特定	34.3%	37.6%	23.7%	4.5%
	愛があっても	44.9%	34.8%	18.9%	1.4%
高校生 段階	不特定	73.2%	19.3%	5.7%	1.7%
	愛があっても	78.7%	16.5%	4.2%	0.7%

不特定n=575 愛があってもn=1197 U-test  $p < 0.005$

性教育について、学校や家庭での取り組みはどのようにあったらよいと思いますか

	学校で	家庭で	分担して	不必要
不特定多数	33.2%	29.9%	32.2%	4.7%
愛があっても	23.4%	34.4%	39.8%	2.4%

不特定n=575 愛があってもn=1197

$\chi$  square-test  $p < 0.005$

- 学校での性教育に関する意識では、おおむね肯定的な意見が多かったが、中学生対象では、教える項目が具体的な予防技術になるにつれて否定的な見解が増加する傾向にあった。教育の主体は学校、家庭、役割分担の3者がほぼ同じ割合を占めた。
- 感染予防には「不特定多数のセックスを避ける」とした群より、「愛があっても感染するのでパートナーとの対話が重要」とした群の方がエイズ教育に対して肯定的・積極的な傾向にあった。